

# チャンスとオポチュニティ (トランプ政策の影響)

これを書いているのは、トランプ政権が誕生して約1週間後であり、公開は約1か月後となる予定である。公開の時点で、どのような変化があるのかは、分からないが、就任前と就任後の言動に大きな変化がないことから、そのまま”我が道を行く”のであろう。

ラジオで、ある経済評論家がトランプ政策に対して「暫くは、”見届ける”や”静観”するのが良い」との見識であった。当面の対処としては、全く同感であるが、ただ何もせず”見届ける”や”静観”するのではなく、その間に、少し”考察”してみよう。

数々の驚く政策の内、本邦に（経済的な）影響がありそうなものを取り上げると、

- 1) ドル安（円高）を容認・積極的に誘導「われわれの通貨は強すぎる」
- 2) 貿易交渉の”マルチ”から”バイ”へのより戻し（TPP永久離脱）
- 3) 米国内への生産回帰（国内雇用の増進）「アメリカファースト」

以上が、主なところとなるのであろう。以降、「トランプリスク」（仮名）としよう。

特に、2)に関しては、自由貿易協定や経済連携協定は、二カ国で結ぶ”バイ協定”と多国間で結ぶ”マルチ協定”に大きく分類されるが、交渉事は、1対多は不利。1対1が原則であり道理。こちらが一方的に有利に進めるためには”恫喝”と”強要”を以って、相手を打ち負かすことが求められる。それが、トランプ流の交渉。合意とは無縁。

では、その「トランプリスク」に対して、どう対処するのか。

<2017/02/03公開「不安とリスク」より抜粋>

- 4) 「リスク」を無力化する。例えば「暖簾に腕押し」にする。（中和する）
- 5) 「リスク」と無関係にする。「リスク」と考えること自体、時間の無駄とする。
- 6) 「リスク」を「チャンス」や「オポチュニティ」（何れも”機会”）と捉える。

もし、「トランプリスク」が貴方々や御社の”脅威”となるなら、そのトランプ政策に変化や改善を期待するより、貴方々や御社が”変化”することが求められる。相手は絶対変わらない。剩え、就任演説において「口先だけで行動しない、文句ばかりで何もしようとしな政治家は、要らない」と明言されている。これは、皮肉にも、米国のみならず、本邦の政治家に向けられたエールと解釈しなければならない。誰も何も変えられない。

力学的に、何か力が加えられて、何か動いた（作用）ならば、必ずそれに対する”反作用”がある。”作用”が強力ならば、その”反作用”も強力である。利用できないか。

チャンスとは、（運命的な）タイミングとしての機会であり、オポチュニティとは、努力や準備の結果によって与えられた（必然的な）機会である。「リスクを取らないことは最大のリスクとなる」羽生善治三冠（当文開示時点）つまり、”勇氣”が必要となる。